

特別シンポジウム 「生と性をめぐる承認」

3月8日(金)15:00~18:00

一橋大学 国立東キャンパス 第3研究館3階 研究会議室

私たちの社会は、生きるに値する生／性とそうでない生／性を峻別していないだろうか。社会学者として生の問題に取り組んでこられた立岩真也氏と長年エイズ予防およびケアの活動にたずさわってこられた池上千寿子氏を迎え、社会科学の諸分野で注目を浴びている「承認」の概念から生と性について考えます。

パネラー

立岩真也氏

(立命館大学大学院先端総合学術研究科・教授)

「承認？」

池上千寿子氏

(NPO法人「ふれいす東京」理事)

「思い込みの性、リスキーなセックス」

司会 大河内泰樹(社会学研究科・准教授)

パネラー紹介

立岩真也

1960年生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。専攻：社会学。著書：『生の技法—家と施設を出て暮らす障害者の社会学第3版』(安積純子・尾中文哉・岡原正幸との共著、生活書院、2012年)、『差異と平等—障害とケア／有償と無償』(堀田義太郎との共著、青土社、2012年)、『弱くある自由へ』(青土社、2000年)、『私的所有論』(勁草書房、1997年)他多数。

池上千寿子

1946年生まれ。NPO法人ふれいす東京理事。東京大学を卒業後、出版社勤務を経て執筆活動始める。82年からハワイ大学「性と社会太平洋研究所」でセクソロジーを学ぶ。94年にふれいす東京を設立しエイズ予防とケアの活動に従事する。著書に『思い込みの性、リスキーなセックス』(岩波書店、2011年)、『アダムとイブのやぶにらみ—刺激的ヒューマン・ウォッチングのすすめ』(はまの出版、1996年)、『男女交際って何だろう—日米学校事情』(大修館書店、1991年)、『性ってなんだろう』(大修館書店、1989年)、『エイズ—性・愛・病気』(ミルトン・ダイヤモンドとの共著、現代書館、1988年)ほか。翻訳書も多数。2005年エイボン女性教育賞、2009年日本エイズ学会アルトマーク賞、2011年WAS金賞を受賞。

主催：一橋大学・大学院社会学研究科・先端課題研究12

「社会科学の承認論的転回」

代表：田中拓道(社会学研究科・准教授)

連絡先：大河内泰樹(社会学研究科)

e-mail : taiju.okochi@r.hit-u.ac.jp

Tel/Fax : 042-580-8522

アクセス

中央線国立駅南口徒歩五分
大学通りを南に下って左右
に大学の門が見えたら左の
門より東キャンパスにお入
り下さい。

